

生物地球学部（新設）—フィールドワークに基づく体験型の教育・研究の実践—

総合情報学部 生物地球システム学科 星野卓二

Keywords: 生物地球学部生物地球学科（新設）、5コース、フィールドワーク、野外博物館実習

1. 学部の目的

近年、環境破壊、自然災害、生物多様性の減少など自然と環境に関わる問題が深刻化し、このような問題の解決に取り組める人材の育成が社会的に求められている。

岡山理科大学では、平成24年4月より総合情報学部「生物地球システム学科」を母体とし、新たに1学部1学科構成の「生物地球学部生物地球学科」を発足させる。新学部では、実物の観察や観測に基づく「フィールドワーク」を教育の柱とし、生物や地球・宇宙に関して多様な興味を持つ学生に対して、植物・園芸学、動物・昆虫学、地理・考古学、地球・気象学、天文学の5コースを通して幅広い教育を行い、様々な環境問題を解決できる人材の育成をめざす。

2. 研究室

(1) 植物・園芸学コース

植物生態学研究室、植物系統進化学研究室、園芸学研究室、植物系統分類学研究室

(2) 動物・昆虫学コース

昆虫生理生態学研究室、古魚類学研究室、動物自然史研究室、魚類生態学研究室

(3) 地理・考古学コース

考古学研究室、環境考古学・古生態人類学研究室、考古理化学研究室、地理学研究室

(4) 地球・気象学コース

地形地質学研究室、環境気象学研究室、地球惑星科学研究室、自然災害学・防災気象学研究室

(5) 天文学コース

天文学研究室（主に激変星などの活動天体、測光・分光観測）、天文学研究室（主に星の大気構造）、天文学研究室（主に星の誕生）

3. カリキュラムの特徴

(1) 生物・地球・天体などの自然、およびこれに関わる人間の活動とその歴史や地理的分布に関する基礎的な内容について学習する。

(2) 野外調査を通して自然を体感しながら学習する。

(3) 実験・実習を通して実物の重要性を理解する。

(4) 野外での実習を充実させるために金曜日には実習の集中講義を組み込み、1年次から野外調査を受講する。

(5) 3年次には野外博物館実習を開講し、学芸員としての科学的思考やプレゼンテーション技法の訓練を行う。

(6) 卒業時までには所定の単位を修得すると、主専攻の他にサブコースの取得も可能。

4. 卒業後の進路

(1) 博物館や教育機関

例：公務員、博物館学芸員、中学校および高等学校の教員（理科）

(2) 自然保護・環境保全などに関わる機関

例：環境アセスメント、GIS関連企業、地質・建設コンサルタント、測量業、気象コンサルタント

(3) 出版やマスコミ、エコ・ツーリズム、観光業、園芸、ペット・動物産業、コンテンツ・映像産業

例：埋蔵文化財調査員、出版社、エコガイド業、旅行業、造園業、種苗業、ペット・動物産業

(4) 大学院への進学 など



図1. オオスジシモチの子育て。雄が雌の産んだ卵を口の中で育てる。